

令和8年 稲作情報 第4号

令和8年7月14日発行 宮城県亘理農業改良普及センター

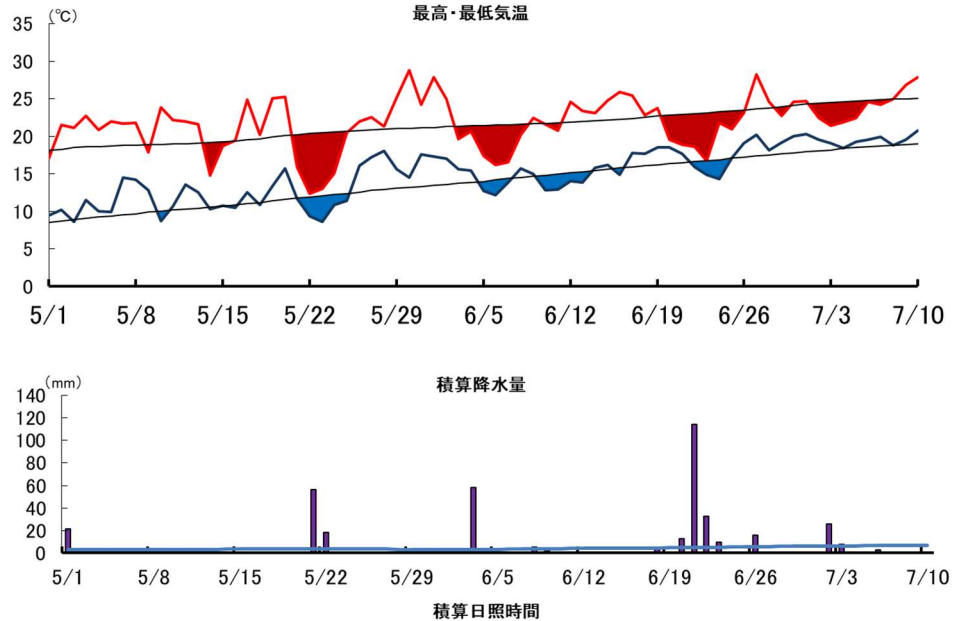
電話 0223(34)1141 FAX0223(34)1143 ホームページ <http://www.pref.miyagi.jp/site/wrnk/>

【気象経過】

(7月)

7月上旬の平均気温は21.7℃(平年差+0.4℃)と平年並みでしたが、日照時間は56.3時間(平年比141%)と平年を上回り、積算降水量は35.5mm(平年比53%)と少なくなりました。

観測地点：亘理アメダス



【移植栽培】

1 生育状況

7月10日調査では、1㎡当たり茎数は、幼穂形成期の目標茎数をほぼ確保しています。幼穂長は「ひとめぼれ」で0.4mmと平年より遅れていますが、間もなく幼穂形成始期となります。一方、晩生品種の「つや姫」、「にじのきらめき」では、幼穂を確認できません。

No	品種	調査地点		田植月日	栽植密度 (株/㎡)	7月10日調査				
						草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (枚)	葉色 (GM)	幼穂長 (mm)
1	ひとめぼれ	名取市	本年値 平年差・比	5月17日 (±0日)	18.5	59.1 92%	507 102%	11.0 -0.6	40.5 -0.5	0.3 -2.0
2	ひとめぼれ	山元町	本年値 平年差・比	5月17日 (±0日)	19.6	55.7 85%	425 84%	11.0 -0.2	43.3 -0.4	0.5 -1.4
	ひとめぼれ	2ほ場平均	本年値 平年差・比	5月18日 (±0日)	19.1	57.4 89%	466 93%	11.0 -0.4	41.9 -0.5	0.4 -1.7
3	つや姫	岩沼市	本年値 平年差・比	5月15日 (±0日)	16.6	67.8 95%	488 110%	10.8 -0.5	42.2 3.9	0.0 -0.7
4	つや姫	亘理町	本年値 平年差・比	5月5日 —	14.9	58.4 —	583 —	10.2 —	36.6 —	0.0 —
	つや姫	2ほ場平均	本年値 平年差・比	5月10日 —	15.8	63.1 —	535 —	10.5 —	39.4 —	0.0 —
5	にじのきらめき	岩沼市	本年値 前年差・比	5月15日 (±0日)	16.6	58.9 75%	504 95%	11.3 -0.2	44.5 -2.8	0 0.0

平年値は、No. 1、2、同一ほ場で過去5か年の平均値。No. 3は、前2か年の平均値。

No. 4は、今年度から調査。No. 5は、昨年度から調査。

幼穂の長さと出穂までの日数の目安

発育過程		出穂前日数	幼穂長
幼穂形成期	始期	25 日前	1 ～ 2 mm
	終期	23 日前	3mm
減数分裂期	始期	15 日前	3 ～ 4 cm
	終期	10 日前	8 ～ 10 cm

2 今後の管理

(1) 生育ステージの予測

「DVR 法」による予測では、仙台湾沿岸の田植時期（5 月 12 日）における「ひとめぼれ」の出穂期は 7 月 30 日頃です。

今後、高温で推移した場合は、出穂期が予測より早まる可能性があります。

ひとめぼれの生育ステージの予測

地帯区分	田植盛期	幼穂形成期 (出穂 25～20 日 前)	減数分裂期 (出穂 15～10 日 前)	出穂期
仙台湾沿岸	5 月 12 日	7 月 7 日	7 月 17 日	7 月 30 日

※幼穂形成期及び出穂期は、「DVR 法」による予測であり、減数分裂期は幼穂形成期の 10 日後とした。気温は、メッシュ農業気象データ（農研機構）により、7 月 10 日までは実況地とその後 26 日間の予報値を使用している。

(2) 水管理

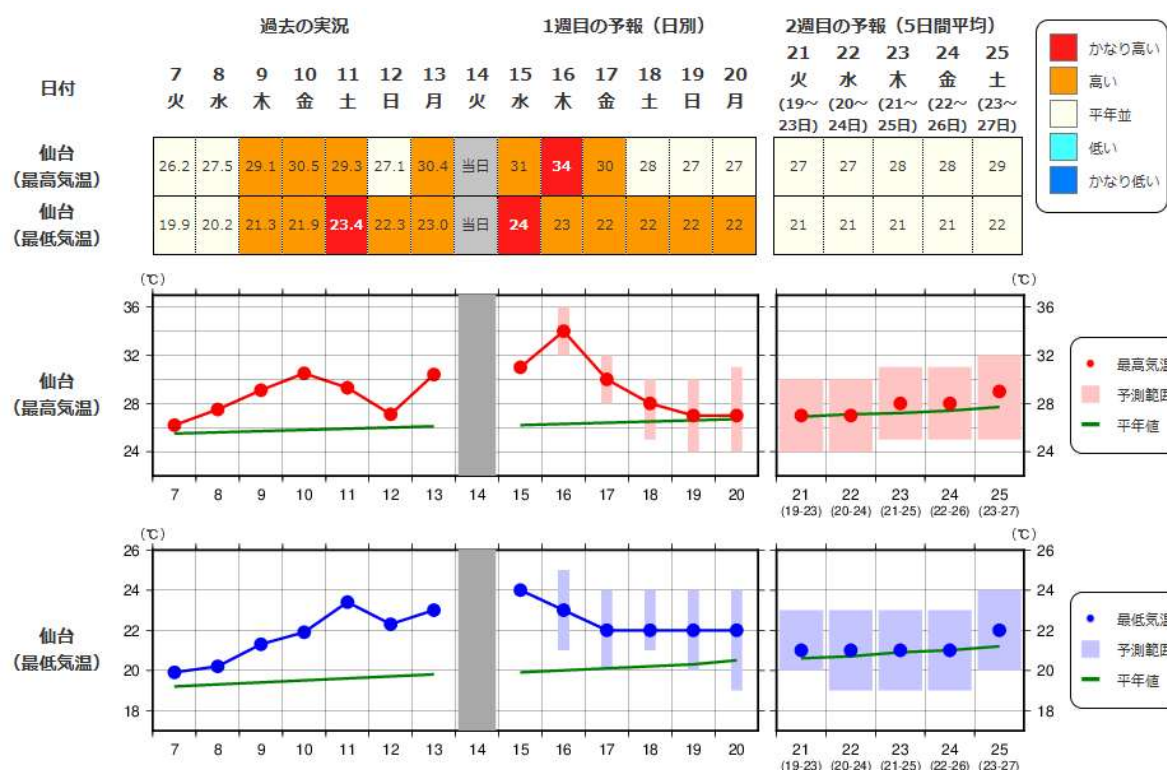
幼穂形成期に達しているほ場もみられるので、中干しを終了し、間断かん水で根に酸素と水分を与えましょう。

2 週間気象予報（気象庁）では、障害不稔となる「日平均気温 20℃以下が長期間続く状況や最低気温が 17℃以下となる状況」は発生しない予報になっています。

万が一、低温になる場合は、深水管理で幼穂を守りましょう。

<7 月 14 日 気象庁>

2 週間気温予報



2 週間気温予報は仙台管区気象台のホームページを御覧ください。
<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/twoweek/>

(3) 追 肥

古川農業試験場の調査によると、施肥窒素の減少は昨年よりも緩やかになっていますが、土壌窒素発現量は6月上・中旬にかけて昨年よりやや多くなっていますが、下旬にはやや少なくなっています。生育ステージごとの葉色の推移を踏まえ、必要に応じて追肥しましょう。

品種・生育ステージごとの生育量及び追肥窒素量の目安

品種	幼穂形成期（幼穂長1～2mm，出穂20～25日前）				減数分裂期（幼穂長30mm，出穂15日前）			
	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉緑素計値 (群落葉色板値)	追肥窒素量 (kg/10a)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉緑素計値 (群落葉色板値)	追肥窒素量 (kg/10a)
ひとめぼれ	56～59	470～530	38～40 (4.4～4.8)	1.0	66～69	450～500	35～37 (4.0～4.3)	1.0
ササニシキ	62～68	720～760	34～36 (3.8～4.2)	0※ ¹		550～580	32～34 (3.5～3.8)	1.0～1.5
つや姫	70～75	550～580	35～37 (4.0～4.3)	2.0				
だて正夢	64～70	390～460	40～42 (4.8～5.1)	0※ ²	76～82	380～420	37～39 (4.3～4.6)	2.0
金のいぶき	65～70	570～620	33～35 (3.6～4.0)	1.0	83～88	490～540	30～32 (3.2～3.5)	1.0
つきあかり	47～55	370～420	40以上	1.0	75～83	330～350	40以上	2.0

(4) いもち病対策

＜発生予察情報 6/24 宮城県病害虫防除所＞	
葉いもち	
発生時期	発生量
平年並	平年並
(7月第3半旬：7/11～7/15)	

葉いもちが発生しやすい気象条件（低温・少照・多雨等）が出現しているかどうかは、県病害虫防除所のホームページの葉いもち感染好適条件の出現状況(BLASTAM) (<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>) で確認できます。

いもち病に感染していれば、葉いもち感染好適条件の出現状況(BLASTAM)の好適条件発生の10～14日後には場で病斑が確認され始めますので、ほ場の観察を行いましょう。発病が見られたときには速やかに茎葉散布剤で防除して下さい。

なお、亘理アメダスの観測データでは、6月19日に感染好適条件となりましたが、その後は7月5日まで好適条件となった日はありません。

(5) 紋枯病対策

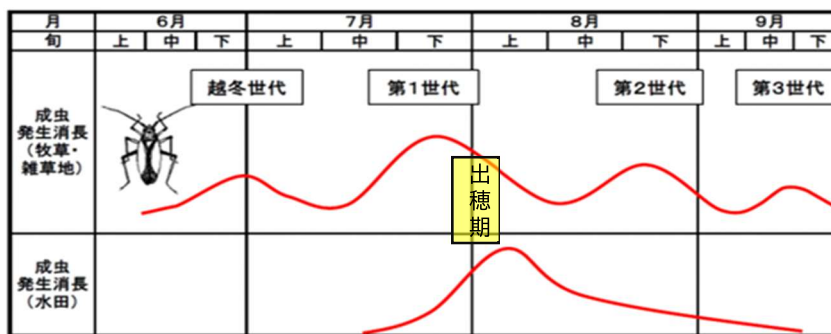
＜発生予察情報 6/24 宮城県病害虫防除所＞	
紋枯病	
発生時期	発生量
—	やや多

昨年発生したほ場では、本年も発生することが懸念されます。要防除水準（収量が5%以上の減収を想定して防除する場合）は、「ひとめぼれ」で穂ばらみ期の発病株率が18%です。

(6) 斑点米カメムシ類の防除

イネ科雑草（特にイタリアンライグラス等）の多い畦畔では、斑点米カメムシ類が誘引されて産卵・繁殖する場所となり、斑点米被害につながる可能性が高くなります。計画的に畦畔の除草を行いましょう。

ただし、出穂期前後の草刈りは水田内に斑点米カメムシ類を追い込むこととなりますので、畦畔草刈りは水稻の**出穂 15～10 日前まで**に終了するようにしましょう。ひとめぼれ（5月12日田植）の生育ステージ予測（アメダスの気温活用）によれば、仙台湾沿岸の出穂期は8月1日ですので、遅くとも7月22日までに草刈りを終了するようにしましょう。



※過去5か年平均の出穂期は7月31日（令和3年～令和7年の巨理普及センター管内平均値）

【巨理・名取管内のアカスジカスミカメ発生時期の推定（アメダス（巨理））】

	越冬世代		第1世代		第2世代	
	ふ化	成虫	ふ化	成虫	ふ化	成虫
発生時期	5月19日	6月19日	7月11日	7月26日	8月9日	8月23日

※7月9日までのアメダス（巨理）実測値と7月10日以降はアメダス（巨理）過去5か年（令和3年～令和7年）の平均値を使用。

※予測月日は重久（2004）の報告に基づき算出（卵：発生零点12.1℃，有効積算温度105.7日度，
幼虫：発生零点11.9℃，有効積算温度182.1日度，産卵前期間：発生零点15.1℃，有効積算温度59.5日度）。

【乾田直播栽培】

1 生育状況

7月10日調査の1㎡当たり茎数は、約600本/㎡となりました。葉数は、移植栽培より1.8枚程度少なくなっています。また、葉色は、移植栽培より薄くなっています。

幼穂はまだ確認できません。

NO	品種	調査地点	播種月日	栽培密度 (条/㎡)	苗立数 (本/㎡)	7月10日調査				
						草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (枚)	葉色 (GM)	幼穂長 (mm)
1	ひとめぼれ	名取市	本年値 3月18日 平年差・比	8.3	237.5	56.2	613	9.2	32.9	0.0
						—	—	—	—	—

今年度からの調査のため、平年比なし。

2 今後の管理

(1) 水管理

ほ場は湛水後も十分に固いことから、収穫作業を考慮した中干しは必要ありません。

慢性的な湿田であれば、中干しによる生育改善効果がみられますが、移植栽培に比較して還元の進行も小さいので、稲の生育が停滞するなどの症状がなければ積極的な中干しは必要ありません。

(2) 葉いもち対策

水面施用剤を防除適期に散布してください。

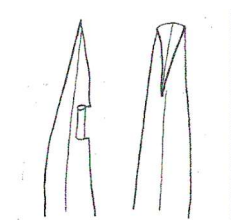
葉いもちが発生しやすい気象条件（低温・少照・多雨等）が出現しているかどうかは、県病害虫防除所のホームページの**葉いもち感染好適条件 の出現状況(BLASTAM)** (<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>) で確認できます。

(3) 斑点米カメムシ類防除

出穂直前に草刈りをするとう水田内にカメムシ類を追い込むこととなりますので、畦畔等の草刈りは7月中旬（水稻出穂 10 日～15 日前）までに実施しましょう。

(4) イネツトムシ（イチモンジセセリ）

イネツトムシの被害は大きく、防除の対象になるのは8月上旬頃に発生する第2世代幼虫です。防除適期は若齢幼虫期の短い期間に限られます。若齢幼虫の形成するツトを見逃さないように注意してください。



図：若齢幼虫の形成するツト

農作業中の熱中症に注意しましょう！（農作業中の熱中症による死者数が急増しています）

高温時の農作業や単独作業を避け、20分おきに休憩・水分補給しましょう。

冷却タオルやファン付きウェアなどの熱中症予防グッズを活用しましょう。

令和8年宮城県夏の熱中症等対策声かけ期間リーフレットはこちら

